

2016年7月

卒業報告書

塩出 晴海

2014年8月に Harvard Business School の MBA 課程に進学し、2016年5月に同課程を修了致しました。留学を通じて学んだこと、今後の抱負について、以下の通りご報告申し上げます。

リーダーとしての姿勢

まず、Harvard Business School で色々なケースや創業者のスピーチを通じて、頻繁に議論になり、いちばん印象に残っているのは、リーダーとして求められる姿勢についてです。その中でも、特に私が共感出来たのは、飲料メーカーのある工場の再建において活躍した元米軍出身の女性の言葉です。彼女は、“リーダーとはピラミッドの頂点に立つのではなく、ピラミッドを逆さまにひっくり返して、いちばん下で支える存在だ”と表現していました。私が、理想とするリーダーの象もそれに近く、リーダーたるもの究極的に全ての責任を自分で抱える覚悟と度量が必要だと思います。こういうリーダーの象は、世界共通の価値観だと教えられました。

信じて任せることの重要性

次に、信じて任せることの重要性についてです。アメリカの会社でも、スタートアップでも、大企業でも、組織のトップが全てを決めるのではなく、下の人間に権限を委譲して、Ownership を持たせることがいかに重要かということは再三議論になりました。結局、人は環境によって育つ、言い換えると、環境が人を作り上げるとのことだだと思います。私は、在学中に始めた自身のスタートアップ (Nature) においても、Nature の追求する“自然と社会の調和”という究極的な Mission に共感出来る人を集めて、試行錯誤しながら、じっくりと Nature らしい組織を作っていきたいと思っています。

不完全な資本主義

我々の世代は、生まれたときから資本主義が前提の社会で育ち、資本主義が現代社会における原理原則として最適解であるように錯覚しがちです。また、一重に資本主義といっても、各国でその運用については差があり、アメリカが最も資本主義を徹底している国だと思います。ロシアや中国は、資本主義ながらも国家の資本主義への介入度が非常に強い国家資本主義というのが実態でしょう。日本やヨーロッパは、資本主義を導入しつつも、これまでの文化的な背景があり、資本主義が完全に徹底されていないところも多々あります。

また、資本主義にも、当然欠陥があり、資本主義のみに依存しては、健全な社会は築けないということを事例を通じて学びました。例えば、需要の極めて高い難病のための薬を法外な値段で売る事。恐らく、その薬の販売会社は大きな利益を得る事が出来るかもしれませんが、値段が高すぎて一部のみにしか手に入らず、その薬の効用を一部の金持ちしか享受出来なくなってしまいます。これは、マーケットの欠陥ではないでしょうか。つまり、ここで必要なのは企業が利益の追求のみではなく、別の尺度 (倫理) も考えて物事を判断することです。資本主義がいかに不完全かを知り、その上での自らの責任を良く考えることの必要性を感じました。

戦略という論理的指向プロセス

Harvardで最も有名な教授の1人であるマイケル・ポーター教授も明言されていますが、欧米では、日本の企業には戦略がないと良く言われます。ここで言う戦略とは、会社が業界の中でより高い収益を生むために構築する実行可能な計画です。特に、米国の会社はこれを理詰めで作りに傾向がありますが、日本の会社は感覚的には理解しているものの、この戦略を設定し、明文化することにそこまで拘らないケースが多いと思います。恐らく、これには文化的背景もあるでしょう。日本でビジネスをやろうと思えば、合理主義では通用しない。会社と会社の関係や、習わし等の弊害がいくつもある。故に、日本の会社では机上の空論となり戦略の設定を細かく立てる習慣がなかったのかもしれませんが。一方で、国内市場の飽和・減衰が不可避でこれから日本企業もグローバルに展開していくことが必須の状況下、欧米的な戦略の立て方についても吸収し、実践して行くことも必要になってくると思います。

生かされているだけという感覚

最近、日常を通じて、Natureという会社の器を使って回している車輪が大きくなっていると感じています。僅か1年前までは、1人で色々な人に話をし、チームメンバーがついては離れというのを繰り返して、全力で漕いでも前に進んでいるのか定かではないという感覚でした。それが、今は少しずつでも確実に前進している、わずかに加速してきているという手応えを感じています。全く同じ私自身が同じように日々を過ごしているのに。

私自身が、必然という引力に引っ張られて、周りの人に助けられ、生かされていると感じています。それは、車輪が大きくなればなるほどその感覚も大きくなっているように思います。結局、私が1人で出来ることは限りがあります。全体を俯瞰し、理想と現実の狭間で腕きながら、次の一手を考える、それが経営者としての自分の存在意義であり、一方で、周りの人の助け無しでは、何も出来ないと強く感じています。

私のベンチャーの旅もまだまだこれからですが、少しずつ自分の中で何かが変わり始め、新しい世界に入っているという感覚があります。謙虚な気持ちだけは絶対に忘れず、掲げたミッションは貫き通し、悔いの残らないように出来ることは全て遣り尽くしたいと思います。

最後に

私が、Harvard Business Schoolを無事卒業出来たのも、周囲の方から支援してもらったからこそその結果だと本当に思っています。MBA留学を暖かく見守って下さった会社の元上司・先輩・同僚・後輩、親身になって起業の相談にのってくださった在校生・卒業生、留學生活で共に励まし合った友人達、私の決断をサポートし、応援してくれている両親・兄妹、留學中私の起業を見守り、支援して下さった船井情報科学振興財団の皆さま、本当に多くの方に支えられています。応援して下さいた皆さまには、本当に感謝しております。

おかげさまで、在学中に立ち上げたNatureも、卒業式の3日前に「Nature Remo」という商品の先行発売まで漕ぎ着けることが出来ました。これから、世の中を変える事が出来るような起

業家へと飛躍し、Nature を通じて 「更なる現代社会と自然との調和」というビジョンを着実に実現して行きたいと思います。